

安曇野市文化振興計画策定市民委員会 会議概要

1	協議会名	平成22年度第7回安曇野市文化振興計画策定市民委員会
2	日 時	平成22年10月27日 午後1時から午後3時まで
3	会 場	安曇野市穂高交流学習センター“みらい”地域学習室
4	出席者	笹本委員長、百瀬副委員長、三原(好)委員、濱委員、小山委員、伊澤委員、三原(寿)委員、矢ノ口委員、石田委員、降旗委員、鈴木委員、岡本委員
5	市側出席者	飯沼教育次長、竹内文化課課長、山田文化振興係長、那須野文化財保護係長、三澤文化振興係主査
6	公開・非公開の別	非公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成22年10月31日

協 議 事 項 等

1	会議の概要	<p>1 開 会 (竹内課長)</p> <p>2 挨拶 (飯沼次長・笹本委員長)</p> <p>3 協 議</p> <p>(1) 文化振興計画素案について</p> <p>(2) その他</p> <p>4 閉 会 (竹内課長)</p>
2	協議概要	<p>(1) 文化振興計画素案について</p> <p>資料説明 (事務局)</p> <p>委員長・前回の協議を踏まえてまとめたが、「文化とは」から始まり、「安曇野らしさ」を盛り込み、社会が大きく転換していく中で、この計画をどのように見ていくのか認識し、計画を次の段階へ進めたい。もっとこうすればよくなるというものを確認したい。意見を出して欲しい。</p> <p>委員・この計画はどれ一つ取っても重要なことが記載されていて、申し分ない。市民がこれを読んだ時に市が目指している目標が汲み取れるものになるよう、分かりやすく記載することが大事だ。新市立博物館構想は重要な柱になる。また、ホールの建設についてはもう少し実現を強調する表現にして欲しい。古いものを次世代へ引き継ぐ博物館だけでなく、現在、安曇野で活躍している音楽や工芸などの芸術家たちを支援する拠点となる場が必要。音楽活動でいうと実際に演奏する場が必要で、「みらい」のような各地の交流学習センターのホールのような200人規模のものでは活動の幅が狭まってしまう。どうしても1000人超のホールが必要だと思う。塩尻にレザンホールがあり、大町に文化会館大ホールがある。どちらも当市より人口規模が小さい。人口規模に比すればホールが必要である。音楽活動は市民の心をつなげることができ、さらに観光にもつながっていく。ホールの建設をもう一つの柱としたい。</p> <p>委員長・ホールの建設を「検討します」という表記を替え、「目指したい」としたい。「ホール」については、「見せたい文化」のカテゴリから、「育てたい」文化施策の方へ移したほうが良いのではないかと。「見せたい」文化はホールを作るのではなく、ホールを使って見せる文化を「育てたい」ということだと思う。厳しい経済状況の下では、「建設」というように書くことはできないと思う。少なくとも委員は、建設を「目指します」としておきたい。</p> <p>委員・ホールについては「目指す」方向でいきたい。県内各地のホールを見ているが、塩尻のレザンホール・岡谷のカノラホールは運営方法がしっかりしていて成功している。安曇野市でもそういうものを目指して欲しい。</p> <p>委員長・どの都市もハコモノを作るのは大変なことで、「目指す」からには活用の予定を示す必要がある。具体的にどのように活用するのか考えて欲しい。この計画に、どのようにホールを使うのかといった活用の提案を、委員のメッセージとして盛り込むことができる。</p> <p>委員・子どもが発表する場所が安曇野市にはない。近隣の市町村の子どもたちと将来的には、社会に出て一緒になることになるのだが、大人になった時に、ホールで体験したことの有無が、大きな経験の差になることがあると思う。</p> <p>委員長・素晴らしい人材を育てていくことが文化施策である。</p> <p>委員・市という組織の中で、この様な規模のホールは備えるべきものだ。将来的には絶対必要だ。委員とし</p>

て、また、市民の中にもホールが欲しいという人が大勢いる。市内だけでなく、国外との交流の場にもなりうる。

委員・・ホールを使うために練習する場所も確保して欲しい。空いている施設を利用するというのも良い。音楽ばかりでない他の分野についても練習する場所も必要。

委員長・「見せたい安曇野の文化」がホールや文化施設を挙げて、公民館に触れていない。地域の文化活動の拠点としての公民館に触れる必要がある。

また、地域文化の創造の中で議論の乖離がある。計画では「安曇野の景観」に触れているのだが、景観は育てていく必要がある。保存ではなく100年後の景観の育成が必要だ。時代にあった景観が必要で、「安曇野らしい景観を育てていきます」というような一文が必要。

文化資源の発掘と活用についても、安曇野が良いところだと住民が誇れることが大切で、そのような概念を示す一文も必要だ。

委員・・民間の施設、資料館は苦戦している館もある。これらは市で考えているものではない。そういう活動や施設への支援の具体的な記述が欲しい。

委員長・私設館の場合は私企業の経営の問題もある。情報として掲載する形にしたい。

委員・・公民館の問題は大事だ。地域の公民館活動が先細りしている。市民が主役という点では、これを入れて盛り上げたい。郷土資料館の統廃合については、中心にばかり集めて、周辺の地域に資料を置かないというのでは、地域の子どものための教育に役立てることができない。中心ばかりが栄え、周辺がおろそかにされるのは良くない。廃止以外の活用を考えたい。

立派な文面にするのは大事だが、予算、体制、具体的な方法など、計画の次の段階も大事。

委員長・経済的な問題も大事なことだ。統廃合には一長一短がある。良いものを中心に出すことで、周辺をアピールすることができる場合もある。安曇野市を一つにするための資料館という考え方もあると思う。

委員・・各地域の無形文化財の掘り起こしと、それを保存する保存会の育成も大切。

委員長・市の文化財保護審議委員会の役割とも関わる。文化振興計画でこのことを訴えて、文化財保護審議委員会の活動へつなげていきたい。

委員・・当市の文化財保護担当は二人しかいない。これだけの規模の市で、この人数で足りているとは思えない。

委員長・これはとても大事なことだ。この市の文化財保護に対する取り組みはレベルが高い。これだけ広い安曇野市で二人では足りないと思う。このことは認識しているいろいろなところで人材の配置を主張しなければならない。人材の配置からしても安曇野市の文化的な取り組みを良いものにしたいと思う。

委員・・小布施町では無形文化財の調査やお年寄りの話等の聞き取り調査をしていると聞く。安曇野でも暮らし、風景などをデジタル化して記録する必要がある。

委員長・デジタルアーカイブ化については既に計画で触れている。例えば、農具のことで言えば、明科と三郷では土の質が違う。土が違うので農具の角度も違う。どのように使うのか、その農具の違いが分かるようにするには、ビデオ等に記録し、デジタルアーカイブ化しておかねばならない。

委員・・新博物館のあり方は、松本のような「まるごと博物館」のようなネットワークも想定しているのか、そういうあり方もあるのではないか。

委員長・「まるごと博物館」は、市民一人一人が学芸員。市民一人一人が展示物というくらいの考え方が必要なのだと思う。ハコモノだけが博物館ではない。これらは具体的な方策の中で考えていきたい。

委員・・美術館・博物館やホールについては、良い活動にするにはちゃんとした学芸員が必要。核となる人材の確保を計画に入れるべき。

委員長・文化を育てていくためには市の人材の配置を検討する必要があり、その一文が必要。同じく学校の教員のことについても触れるべき。人材の問題は計画で触れるべきだが、どのような形にするかは検討したい。

委員・・各博物館のことについての記述が唐突な感じがする。

委員長・各館の活動について「市としてどうしたいのか」、「各館はどのような役割を担うのか」というような考えを入れねばならない。それを入れるともっと分かりやすくなる。全体的には将来的な文化を考えたい。長いスパンでの役割を計画に書きたい。

委員・・ホールの活用について話したい。祭囃子の発表会を行っている。それぞれの地域の祭囃子を伝承するため、お祭りの時だけでなく、一箇所に集め発表会を行っている。祭囃子を各地域の人々がお互いに演奏し、聴取し合える場所が必要。

小学校6年生は体育館に集まって音楽会を行っている。しかし、松本市の小学生はホールに集まっている。この時代に体育館に集まるというのでは寂しいではないか。

委員・・先人の顕彰について、この様な人が安曇野にいたということを知らしめる必要がある。データベースだけでなく、一冊の本にして欲しい。それがいろいろなところで手に入るようにして欲しい。

博物館、資料館については、安曇野市は将来的に財政が苦しくなると思う。10年、20年引き継ぐため

に、財政的な裏づけをして市民、とりわけ子どもたちが学ぶ場を作って欲しい。

どうやって人に見てもらおうか方策が必要で、義民記念館や臼井文学館などの資料は分散してでも、人に見てもらえる機会を増やすことが必要。学校やイベントの現場に持って行って観てもらおうという方法もあると思う。人材不足は友の会を動員して手伝ってもらえるようにするのはどうか。いかに市民にその資料を知ってもらおうか、具体的な方法を示したい。

委員長・ どうやって子どもたちに伝えていくかが大事。文化財を理解してもらおう方策を盛り込みたい。どういう形にしたら子どもたちに知ってもらえるか、長い目で見た場合、出版物が良いとも限らない。ホームページからダウンロードという方法もある。顕彰する人を知り、それを超えていく人材を育てたい。いかに文化を作っていくか、それが大事。

委員・ ・子どもの教育のために、資料館の資料を一箇所に集めた際に、余った資料は学校へ移管するなど、活用して欲しい。

委員長・ 資料館の統合の時に資料を棄ててはいけない。同じものがあれば子どもたちに触れてもらうというのは良い。

委員・ ・公民館の成り立ちについて理解していない市民が多い。地区公民館が80館ほどあり、分館が5館ある。安曇野市の規模ではこの分館の数では不足だと思う。地区公民館の活動の停滞は免れないので、もう少し公民館について触れたい。ホールについては多目的なホールが現実的だと思う。

委員長・ 政策的なことは書きこみすぎない方がよい。「公民館活動を積極的に支援する」という一文を入れるだけで違ってくると思う。ホールについては、財政の問題もあるが、少しでも良い形にしていきたい。

委員・ ・民間の美術館、ギャラリーなどの施設との連携、ネットワーク化が必要。

委員長・ 市が作るとどうしても行政主体となる。市民が作るという認識が大事。

この計画の冊子の表紙は、美しい安曇野の田園風景の写真等を使って、市民が手に取りたくなるような物にしたい。

市内の先駆的な活動はトピックスにして読んでもらうという方法もある。この様な市の計画書、報告書はほとんど読まれないものなので、読んでもらえるようなものにするためにも、委員の皆さんに協力してもらって、コラムを書いてもらいたいと思う。想い一つで文化の伝わり方が変わらと思う。この計画で、安曇野市を自慢したい。安曇野にはこんな良いところがあるという自慢話を掲載したい。また、この計画の中に博物館や美術館だけでなく、図書館も入れたい。図書館は文化の砦の一つである。

地域全体が良くなっていくようにしたい。この計画が周辺のほかの都市に影響を及ぼすようにしていきたい。

委員・ ・我々の活動をいろいろなところにPRしてほしい。

委員長・ 今の段階でこの計画の策定についての情報が、外に出ると逆に制限されることもありうる。いろいろなところでこの計画を自慢しているが、お互いに自慢しあっていきたい。

(2) その他

委員・ ・あと何回会議があって、どのように発表するのか。

事務局・ 市民委員会は今年度3月までにあと3回行う。専門委員会はあと2回。細部は各担当部局で対応したい部分もある。2月にパブリックコメントを集め、3月にそれを反映させて成案としたい。印刷して市民向けに出すのは来年度になる。

事務局・ 今日の会議もマスコミ等に来て取材してもらいたいところもあったが、施設の廃止の案件があると、そちらばかりが取りざたされて報道されてしまい計画の策定に支障が生じてしまう。今後も会議は非公開で行いたい。

委員長・ 報道機関は一方的な視点からしか書かないことがある。妙なところで計画の策定に足を引っ張られずに議論をしていきたいと思う。